



題字 井口 文章
再刊 第342号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：未来の自分が輝くための進路講演会
どうなる？合唱祭 実行委員長に取材
二面：月に桜を味かせたい
フランスの地で邁進する卒業生を特集

未来につながる進路の知恵

進路選択へ一歩前進

9月30日(水)に、1年生は進路講演会、2年生には学部説明会が行われた。1年生は、11月に迫った文理選択のポイントや将来の夢の実現に向けた話をマイナビの講師の方から教わった。また、2年生は興味のある学部について、学部別に分かれて大学の先生から学んだ。各学年、進路選択において有意義な情報を得ることが出来た。今号ではその様子を紹介する。
(編集部共同取材)



真剣に話を聞く1年生
熱心にメモを取る姿も見られた。

<1年生講演会>

講演会の始めにキーワードとして「自分事化」を挙げた平野さん。世の中で起る様々なことに対して自分目線で考えるよう促し、1年生の興味を惹きつけた。「大きく変化する世の中において、自ら考えて動く力が今もこれからも大事になってきます」と主体性の重要性を語る。さらに「周りの人と協力して課題を解決できる人になってほしいです」と続け、協調性も大切であると話した。また、就職活動を始めた人が挙げた「今までやっておけばよかったこと」について統計で、最も多かったのが「自己分析」という。平野さんは「目の前の選択の1つ1つを自分に問い直してほ

<2年生学部説明会>

2年生は、全32種類のなかから自分の興味のある学部を選び、講義を受けた。ここでは2つの学部の説明会の様子を紹介する。
食文化に幅広く関わる
栄養学の説明会は、日本女子大学で公衆栄養学を担当している鈴木礼子准教授によって行われた。この講義はコロナ感染予防を理由に、オンラインで実施された。スクリーンに内容が映し出され、パソコンのカメラを通じて互いに顔と声を共有した状態で説明された。「栄養学は生命維持と健康のための科学を学ぶ学問です」と鈴木さん。「食を通じての社会貢献」を栄養学を学ぶ上で目指していると言語。鈴木さんは「食は自分の文化を作り上げているもので

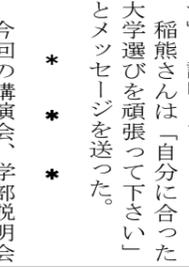
動き出す合唱祭実行委員会

代替実行開催できるか
10月9日(金)書道室で合唱祭実行委員会が行われた。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今年度は合唱祭の中止が決まっている。そのため球技大会と錦城祭同時開催、合唱祭に代わる行事を開催することを検討中だとい



行事に対する熱意を語る実行委員長

今後、更に実行委員会内で内容を深め、先生や生徒会による審査を通過した後、行事の全容が決定する。
皆が楽しめる代替行事を
合唱祭実行委員長の大田勝君(2A)に取材した。大田君は「今年も例年通り行



オンライン説明会の様子

今回の講演会、学部説明会では、各学年の進路選択にあたって大切なことを多く学ぶ機会になった。今号の裏面では卒業生の進路選択に関する特集もあるのでぜひ参考にしてほしい。

編集部からのお願い
「記事にしてほしい」
ことがあれば
お近くの編集部員まで
お声掛けください!

自分史上の「ベスト」に挑む

陸上部
女子競歩 関東大会出場
9月24日(金)から26日(日)にかけて行われた東京都新人大会で、好成績を残した。女子競歩で優勝した小倉優凛さん(2C)は第24回関東高校選抜新人陸上競技大会への出場が決定した。都大会での結果について「前回出場した大会で肩と腕の筋力が弱く、悔しい思いをしましたが、反省を生かして練習し、結果を残すことができたので良かったです」と振り返る。新型コロナウイルスの影響で、学校で行う練習が1時間に制限されていたため家でも練習したそう



冷静に当時を振り返る陸上部員



男子・女子バドミントン部 4人で決めポーズ

都大会への出場が決定
ソフトボール部
新人大会予選で勝ち上がり、都大会に出場することが決まったソフトボール部。部長の古閑丸陽子さん(2B)と部員の野澤瑞佳さん(1B)に話を聞いた。「昨年予選敗退だったので、素直に嬉しいです」と語る古閑丸さん。都大会に向けては「ベスト8を目指して、一勝でも多く勝ち進めるように精進したいです」と

未来へ向けて高まる意識

10月7日(水)、1年生を対象に分科会が行われ、来年度のコース選択に向けての説明を受けた。
第2体育館では、特進理数・進学理系コースを志望している生徒に向けての説明が行われた。各教科の先生方から2年次以降の勉強法や教科の内容などの具体的な説明が行われた。国語科の設楽先生は「言語を使う能力は大事です。理系だからといって、国語をオプションだと思わないでください」と語った。自分自身の経験談を交えながら話した数学科の青木先生は「数学は学習の積み重ねが大事です」と強調する。最後に、理科の甘来先生は「数学は予習を、理科は復習をしっかりと行いましょう」と話し、生徒は熱心に話を聞いていた。
ホールでは、難関国公立大学進学を目標とした特進文理・文Ⅱコースの説明を実施。国公立大学と私立大学の違いについての説明のほか、進路指導部の石井先生の「目標は高く持つ」というアドバイスや教科別の先生方によるメッセージが生徒に向けて送られた。英語科の福江先生は、自分が思っていたよりもずっと早く、大学受験や就職活動の時期がやってきて困惑したという体験を語った。そして「今のうちから己の『武器』となるものを見つけてください」と話した福江先生。2年後の大学受験、そしてその先の未来へ繋がる有意義な時間となった。(紅・桜)



油断せず慎重に検討しよう

むらさき草

緊急事態宣言が解除されて、慌ただしく1学期が過ぎ去り、2学期の中間考査前を迎えている。休校期間中は自由な時間が多かったが、外出自粛要請でつまらなかつた。いざ学校が始まると、忙しかったが、前よりも充実しているように感じ、楽しかった。それは自分でも意外だ。8月15日の終戦記念日、勉強しながらテレビを見ていて、被爆者の方が「これからも戦争のない平和な日々が続いてほしい」と語っていた。少し手が止まった。そういえば、この日常を「平和」と意識したことがなかった。テレビや新聞などで今もテロや紛争が起きている地域があるのを知り、日本に生まれて良かったと思えたことはある。この「平和な日常」が当たり前の前さながらかもしれない。戦争を経験している人は、より日常を平和に見いだすことが多いのだと思う。今ある日常が、当たり前ではないと知っている。若い世代よりも「平和」を知っている。同じ日常でも、その人がこれまでどのような経験をしてきたか、どのような知識を持っているかによっても見え方は違うだろう。例えば、眼鏡が机の上の一つあったときに、美術の先生ならそのフレームの形や色に着目するだろう。化学の先生ならレンズの厚さを見て屈折角を計算するかも知れない。また、苦しさ、つまらなさを知っている人は、知らない人よりも楽しさを見いだすことができるはずだ。▼何か苦しいこと辛いことがあった時には、次に楽しいことがあった時に思い出す。このことを意識すれば乗り越えることができるかも知れない。あなたは、自分だけが自分だけの視点で世界を見ているかを意識したことがあるだろうか。(雀)



卒業生 & 錦城

「想像力」で宇宙に挑む

世界に踏み出す卒業生に取材

錦城の卒業生である青井勇輝さん(48回生)が、フランス国立農学研究所(INRAE)の博士課程に合格した。青井さんの目標は「月にしだれ桜を植える」こと。今回は青井さんに、ZOOMを用いて取材することができた。

世界的な研究所に合格

6月8日(月)、錦城高校の卒業生である青井勇輝さん(48回生)に、ZOOMを用いてのオンライン取材を行った。青井さんは「月にしだれ桜を植える」という夢のもと宇宙飛行士を目指しており、錦城高校新聞308号(2019年10月7日発行)でも特集をされている(詳細は下の記事参照)。前回の取材時、東京農工大学大学院農学府の修士課程に所属していた青井さんは、今年の春にその課程を修了。9月からは、フランス国立農学研究所(INRAE)とい

自らの成長を求めて INRAEを受験

青井さんは、去年の6月にパリで行われた国際植物生長物質会議(IPGSA2019)の最終にINRAEのフランス人研究者と知り合ったことがきっかけで、今年3月、INRAEの受験機会をつかんだ。3月にはすでに東京農工大学の博士課程に進むことが決まっていた青井さんだったが、「このまま日本で博士課程にいても、宇宙飛行士にはなれない。チャレンジしてみよう」と思い、日本の博士課程への進学をやめてINRAEの受験を決意。その後、書類選考、英語でのオンライン面接、プレゼンやディスカッションを経て、今年の5月、見事合格を勝ち取った。



ZOOMを用いて青井さんに取材。「人が想像できるものは、すべて実現できます」と力強く話す。

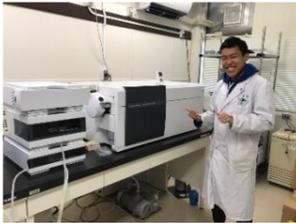
青井さんは、去年の6月にパリで行われた国際植物生長物質会議(IPGSA2019)の最終にINRAEのフランス人研究者と知り合ったことがきっかけで、今年3月、INRAEの受験機会をつかんだ。3月にはすでに東京農工大学の博士課程に進むことが決まっていた青井さんだったが、「このまま日本で博士課程にいても、宇宙飛行士にはなれない。チャレンジしてみよう」と思い、日本の博士課程への進学をやめてINRAEの受験を決意。その後、書類選考、英語でのオンライン面接、プレゼンやディスカッションを経て、今年の5月、見事合格を勝ち取った。

イメージの力が進路を決める

学校の進路学習ではあまり耳にすることのない大学院。大学受験のアドバイスに加えて、大学院とは何をするといいのか、東京農工大学の大学院で修士二年を修めた青井さんに聞いた。

大学受験は「イメージ」

受験はもろろんのこと、何かを成し遂げるときに重要なのは「イメージ」だ。自分が合格するイメージができれば、それは現実



農工大の研究室と青井さん

ものとなってきました。しかも、もちろん、受かるイメージには根拠が必要。その根拠となるのが自分の経験です」と青井さん。

答えのない大学院での学び

大学院の大きな特徴は「解が無いものを追求する」ところだ。大学では授業やテストなど座学中心で、その

INRAEは、研究室の開いている時間が日本に比べてはるかに短い。それにもかかわらず、世界的な結果を出していることに惹かれた。限られた時間の中でも、結果を確実にしなくてはならない。それを成し遂げるためには、何をどの時間にすべきかを考えるタイムマネージメントの力が重要になります。INRAEでは、その方法が学べると思



国際植物生長物質会議(IPGSA2019)でのプレゼン

「世界トップレベルの研究所に身を置くこと、多言語で講義やディスカッションを行うことも、自分を成長させてくれるはず」と話した。

植物のプロとして宇宙に

今までは生物化学的な植物の成長ホルモンの研究をしてきたが、フランスでは新たに物理化学的な細胞壁の構造について研究するという。新たに物理化学的な分野を開拓しようと思った理由について「生物・化学・物理学の3つの視点から体系的に植物を見ることができるようになると思ったから」と青井さん。宇宙飛行士を目指していく上で、こうい



NASA(ワシントンDC)でプレゼンする青井さん

自分のために先を見据えて

青井さんが大切にしているのは「未来を常に考えること」として「想像力」。青井さん自身、宇宙飛行士になるためには何が必要かを計画的に考えて、多言語習得や空手、陸上さらには植物研究など様々なことにトライしてきた。「高校生のうちは、自分が何を学びたくて何になりたいか、具体的に考えることはできないかもしれない。しかし重要な

経験と知識を糧に未来へ

「誰にとっても時間は平等で、その時間をかけた自分の経験と知識は誰にも盗まれない。盗めない財産です」と青井さんは言う。人が想像できるものは、全て実現できる。青井さんは、その計画力、知識と経験、何より想像力を武器に、月に桜を咲かせようとする宇宙に挑んでいる。

INRAEってどんなところ?

フランス国立農学研究所、INRAE(写真は青井さんによる)は、約2000人の研究者が所属している、世界的に有名で大規模な研究所だ。農業や食品、環境など研究分野も多岐にわたる。(参考: <https://www.inrae.fr>)

青井さんに聞いてみた!

現在に至るまで、さまざまな経験をしてきた青井さん。そんな先輩である青井さんに、いろいろ聞いてみました!

Q1 青井さんは、6か国語を駆使して世界中で人脈を築き上げていますが、そのコミュニケーションのコツは?

青井さん: まずは笑顔。これが一番大事。次に「No」と言わないこと。相手からの誘いはできるだけ断らず、基本的に「Yes」でいきます。最後に、カタコトでもいいから相手の母国語で話すことです。

Q2 青井さんのように、世界で活躍するには?

青井さん: まずは、どんな風に活躍したいのか具体的に考えることです。そのうえで、セミナーやプログラムがないか情報収集を。積極的に外の世界へ挑戦して、早いうちから主体性を持って行動すればいいと思います。

Q3 いままで一番大変だったことは?

青井さん: 僕は過去の経験を「大変だった」と振り返ることはあまりないです。何か失敗をしてしまったときも、20秒だけ落ち込んで「じゃあどうするか」をすぐに考えます。失敗するのは理由があるから。みんなが落ち込む時間の分、僕はまた次へ向かって動き出します。途中の過程で失敗しても、最後に成功させられればそれでいいんです。

どうして月にしだれ桜を?

錦城高校新聞では、過去に308号(2019年10月7日発行)で青井さんにインタビューしている。当時青井さんは東京農工大学大学院農学府の修士課程で、植物の成長を促進するホルモン「オーキシン」について研究していた。



一年前の5月29日(水)にラーニングセンターにて取材

小さいころから宇宙や植物に興味があった青井さんは、宇宙飛行士になることを将来の夢にしていた。あるときふと「無重力空間に植物を植えたらどうなるんだろう」と疑問を持ち、無重力空間でもしだれ桜はしだれるのか、自分で確かめてみたくなったという。美しい月や桜が好きで、その姿を見たいと思ったことも理由のひとつだ。

308号はその他にも、青井さんの錦城生時代や、2019年3月に開催された「若者による多言語プレゼンテーション大会第6回 LMP Youth TOKYO」で金賞を受賞したことなど、青井さんの昨々までの経験について詳しく取り上げている。錦城高校のホームページに掲載されているので、興味のある人はぜひ見てほしい。

大会報告

陸上部
▽9月25日(金)〜27日(日)
東京都新人大会
・男子6支部1000m
野口裕太(2L)
8位
・女子6支部やり投げ
貝瀬彩花(2A)
1位
・女子6支部3000m
深田すみれ(2D)
8位

大会報告を募集しています!
お近くの編集委員会か、
新校舎7階生徒会室まで
お願いします!!